

MBTコンソーシアム宣言

Medicine-Based Town [医学を基礎とするまちづくり]

私たちMBTコンソーシアム参加企業・団体は、お互いの信頼のもと力を合わせて、医学に基づいた、少子高齢社会のためのまちづくり、産業創生、地方創生を通じて社会に貢献します。

平成29年9月26日宣言 一般社団法人 MBTコンソーシアム 参加企業・団体一同

▶ 参加企業・団体一覧 [掲載を同意いただきました企業・団体のみ掲載しております]

株式会社 iTest
株式会社アズマ
有限会社アベックス
株式会社池利
株式会社イマナカ
株式会社イムラ
株式会社インデックス コンサルティング
株式会社エクスレイヤー
株式会社NTTデータ経営研究所
MS&AD基礎研究所株式会社
大阪ガス株式会社
株式会社岡伸
株式会社奥村組
楽研株式会社
関西電力株式会社
株式会社関西エネジーソリューション
北関東総合警備保障株式会社
キリン株式会社

近鉄ケーブルネットワーク株式会社
株式会社グランソール免疫研究所
KDDI株式会社
KTX株式会社
株式会社健康都市デザイン研究所
一般財団法人 弘済会
小山株式会社
株式会社崎山組
佐藤薬品工業株式会社
株式会社三技協
株式会社産業経済新聞社 大阪本社
株式会社サンロード
三和澱粉工業株式会社
JSR株式会社
株式会社JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント
株式会社資生堂
シャープ株式会社
昭和西川株式会社

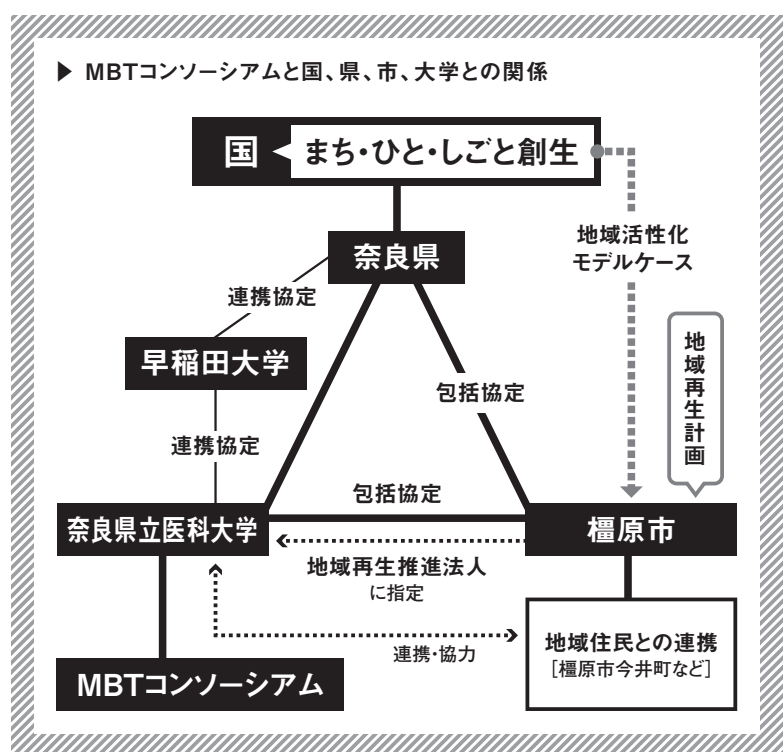
株式会社新生
積水ハウス株式会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
大和ガス株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社タカゾノテクノロジー
株式会社タカトリ
株式会社ツムラ
株式会社テクリコ
テルモ株式会社
東京急行電鉄株式会社 東急病院
株式会社ドクターネット
凸版印刷株式会社
公立大学法人 奈良県立医科大学
奈良精工株式会社
株式会社南都銀行
医療法人 西井会
医療法人 康仁会 西の京病院

日本生命保険相互会社
日本タクティールタッチ協会
日本バーリンガー・インゲルハイム株式会社
日本無線株式会社
日本ユニシス株式会社
ニューロンネットワーク株式会社
パシフィックコンサルタンツ株式会社
株式会社ひばりラボ
ヴァイタル・インフォメーション株式会社
不二精機株式会社
富士通株式会社
株式会社プチファーマシスト
船井電機株式会社
株式会社プロアシスト
プロライト株式会社
ヘルスグリッド株式会社
ホシデン株式会社
株式会社本田技術研究所

松田電気工業株式会社
まつのえ株式会社
丸一鋼管株式会社
株式会社みずほ銀行
株式会社三井住友銀行
株式会社村田製作所
明豊ファシリティワークス株式会社
メディケア・リンク株式会社
モード・ユニット工房株式会社
ヤマト運輸株式会社
ユアサM&B株式会社
医療法人 友誼会 奈良友誼会病院
ユニオンツール株式会社
株式会社ライブビジネスウェザー
ロート製薬株式会社
ワタキューセイモア株式会社

(五十音順 / 平成30年1月現在)

私たちと一緒に社会貢献にチャレンジしませんか！



私は15年前にMBTの前身となる「住居医学」を発想しました。通常は医学と直接関係がない住居や家具のあり方を医学的にとらえることで、より健康に過ごせる生活様式への転換を促しているというものです。いわゆるハリアフリ住宅と異なる考えで、若い頃から高齢に至るまで、長く健康を維持するために、医学の知識を生かしていく発想です。

医師など医療者は、治療することが本分です。そのために多くの知識を学び、自ら研究してデータをとり、新しい治療法などを開発して発表することによって他の治療法につながるものは、論文などとして発表することがあります。医師も利用することがあります。患者を救いたいという思いは医師に共通しています。

最大限の力を発揮できるのは、医学の力で広く社会に貢献することです。これがMBTの根本的な発想です。

そのカギになるのが、産業界との連携だと思えます。医師は膨大な知識を持って治療を行っていますが、この膨大な知識を患者さんのためだけに、新製品や新システムの開発に携わることによって、より広く社会に貢献できると思っています。

が、残念ながら医学と産業界の連携は遅れているように思えます。企業の方が、医学的知識を必要としても、誰に聞いてよいのか分からなかったら、それは、奈良県立医大では100弱の企業・団体とコンソーシアムを設立し、積極的に医学情報・知識を提供できる体制を整えました。現在は12研究室で企業とのマッチングが成立し、進行中です。

特に近年、優秀な学生が医学部を目指す傾向があります。この優秀な能力を一人ひとりの患者さんや救うために使う事はもちろんですが、広く産業創生、地方創生をして人が住むまちづくりにその能力を生かすことによって、より一層社会に貢献して欲しいと思っています。最後に、我々のMBT構想に賛同していただける企業との出会いに期待しています。

正しい医学の知識
住居医学からMBTへ

日本が取り組まなくてはならない大きな課題は、超高齢化への対応と新しい産業の創生、それによる地域の活性化です。すでに様々なアプローチがなされ、具体化しているケースも少なくありませんが、将来への不安を完全にクリアするところまでには届いていないようです。奈良県立医科大学が取り組むMBTは、医学の知識や情報を活用して、新しい視点からの産業創生、まちづくりを進めようというものです。

医学は社会の財産
患者の治療に加え
幅広い分野に活用

に、アドバイスを求められることがありました。確かに、工学的にはよく考えられているのですが、医学の立場からすると、人の聴覚に関する基本的な理解がなく、工学的には良くて、医学的には正しくないといふことが多くありました。もっと早い製品開発の段階から医師が関与していたら、より迅速に医学的に正しい製品が世の中に出たと思います。



奈良県立医科大学 理事長・学長
細井 裕司
Hiroshi Hosoi

1948年、大阪府生まれ。奈良県立医科大学卒業、近畿大学医学部助教授などを経て99年、奈良県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授。同大学付属病院副院長、理事を経て2014年から現職。専門は耳鼻咽喉科学、特に聴覚医学、新聴覚(超音波や軟骨伝導聴覚)、耳科手術、ならびに住居医学。

TOP INTERVIEW 理事長インタビュー

医学の力で新たな産業の創造を目指す 社会に貢献する枠組み不可欠

奈良県立医科大学は、医学を基礎とするまちづくり、MBT (Medicine-Based Town) 構想に取り組んでいる。正しい医学の知識を生かして、超高齢社会に対応し、さらに産業創出による地域活性化などにもつなげようという意欲的なプロジェクトだ。MBTの根幹をなす理念や将来のビジョンなどについて、細井裕司理事長・学長に聞いた。